

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2277100588 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人慶成会 | | |
| 事業所名 | グループホーム花みずき(葵館) | | |
| 所在地 | 静岡県浜松市西区大山町2882番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和5年9月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関や夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により地域交流は減ってしまいましたが、法人内の保育園児と交流したり、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地を活かした取り組みを続けています。敷地内で収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組みを始めた自立支援介護では、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの事業所では法人が運営面を管理しており、管理者やユニットリーダーが予算対効果を検討したうえで運営に携わるといことは見られません。当事業所では「アメーバ経営」を推進する法人の下、上位者たちが経営者と同様の役割を担っています。その為意見には大局観があり、裏付けも確かで信頼が積み、安心感が自然に沸きます。運営推進会議に準備する資料もデータや写真が盛りだくさんで、当機関が担当する100余の事業所の中で、抜きんでてトップオブザトップです。だからと言って頭でっかちになることもなく、利用者の飲むモノ、コトを常に考えていることがわかる取組があり、家族からも評価されている点も秀でている一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議でのクレドの唱和、行動指針を基に毎月目標をかかっている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が反映されており、共有と実践に繋げている。 | 法人の新人研修会では理事長自らが理念に係る講話をおこない、スタート段階から理解を求めています。さらに、理念を行動指針としたクレドを基盤に「重点項目シート」が作成され、目標設定イコール理念の推進に実っています | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの状況に応じてだが、地域包括主催の体操教室への参加を始めた。また、浜松市主催のアルツハイマーデーに合わせた展示物の手伝いをしたり、地域の飲食店へ出かけたりにしている。 | コロナが5類へ移行したものの高齢者は感染リスクが高いこともあって、なかなか地域に出ることは進みませんが、利用者最大の楽しみである飲食はソーシャルディスタンスが保てる店舗へと出掛け始めています | 地域包括支援センター主催の「いきいき体操教室」には2名が参加しているとのこと、職員も覚えて参加利用者と一緒に所内披露する場を設けると、なお効果的かと思えます |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元高校生への認知症サポーター養成講座の講師として職員が参加している。また、運営推進会議の資料を通じて、認知症の種類などについて資料配布している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により書面開催が続いていたが、ご家族や地域の方からいただいたご意見には全て目を通して。ご家族の意向に合わせて施設利用料の振替システムを変更する等、意見を可能な限り反映させている。 | 5類移行から参会での運営推進会議が可能となり、法人内の介護付き高齢者住宅と合同開催がおこなわれています。メンバーが揃うことは未だ叶わないものの、民生委員や老人会のほか他事業所の看護師などの出席も得られ、質疑も多彩で盛んです | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、コロナ感染や抗原検査キットの使用、予防接種の進捗、待機者状況等を求めに応じ報告を行っている。8月には運営指導があり、アドバイスいただいた点については改善を行った | 地域包括支援センターは法人受託ということもあって、親しく往来でき助けられています。浜松市の実地指導では「指摘事項なし」でしたが、口頭では「湯温を職員の体感ではなく計器で」との指示があり、速やかに改善しています | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内で委員会を設置している。入職時研修他、事業所内でのリモート研修を実施している。会議録には不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている | 身体的拘束適正化検討委員会は3つのユニットから職員が出席しており、各ユニットの状況を集積する機会となっています。また転倒をはじめとする事故が発生する時間帯や職員配置数などが数字で把握され、対策が立てやすい点は評価に値します | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行っている。個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターやご家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会制限が緩和され、ご家族から対面で意見をうかがえる機会が増えた。また、利用者の状態変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡をし、意見や要望を聞いている。 | 面会ができるようになって直接要望が聞けており、「速やかに応える」ことを励行しています。家族アンケートには賛辞の言葉が躍り、またその記述量も多いことから、事業所の日頃の努力とともに家族の愛着の高さが覗えます | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めると共に、アミーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝えている。事業所運営については職員が主体となり、月間目標を立てている。 | 中庭の園芸に励んだり、ベトナムケーキを作ったり、職員がそれぞれ持つ得意なことをユニットリーダーが支援しています。また職員は総じて協力意識があり、それはレクリエーション活動にも顕著に表れています | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の人事考課・面談を実施している。また年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も各職員が目標を持って取り組む内容になっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で新規採用職員研修が実施されており、入職半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へリモート研修が受けられるよう整備され、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内研修へ参加してもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はなくなってしまったが、運営推進会議の資料送付を継続している。法人内研修により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会・外出制限を緩和し、ご家族と外出や外食にでかける機会が増えた。また、9月から居室内での面会を再開し、ご家族に衣替え等の協力を仰いでいる。面会以外にも、ご家族が来館したいタイミングで差し入れを受け付けたりと、ご家族と共に支えるよう努めている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 暑中見舞いや年賀状だけでなく、レクリエーションで絵手紙を作成し、ご家族に送付している。毎日の姉妹との電話連絡や、晩酌等、在宅からの日課や関係性が途切れないよう支援に努めている。 | ビール、日本酒とそれぞれの好みのお酒を本人の状態や場の状況に合わせて提供できており、向かい合って「乾杯！」する微笑ましい姿もあります。またちぎり絵や絵手紙も浸透していて、家族から嬉しい返信があった利用者もいます | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 馴染みの利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や行動から、ご利用者の希望や要望を把握するよう努めている。希望に応じた手作りの食事を用意したり、選択肢を伝えながら意向確認に努めている。ご家族が誕生日プレゼントに用意した日本酒を使い慣れたおちょこで気分に応じてたしなむ等、ご家族の意向も取り入れ対応している。 | 失語状態の利用者には目視で分かるように選択肢を示したり、癌となって食が進まない人が「わらびが食べたい」とこぼせば即調理に入るといったきめ細やかでスピーディーな対応がみられ、アセスメントも3ヶ月に1度と丁寧です | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行っている。可能であれば自宅へ出向いて居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている。入居の際、センター方式の記入をお願いしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日々のケア記録や申し送りにより、常に職員は状況把握に努めている。ご利用者ごとの申し送りファイル他、定期的にADLの状態を見直し、LIFEへデータ送信している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。計画見直しの際にはご家族へ電話連絡や面会で意向確認を行ったり、必要に応じ医療機関と面談を実施し、面談内容を計画に反映させている。 | 介護計画の意向欄は「本人の口語体」で記載され、家族は自筆で書き入れる人もいて、「皆でつくる」を実践しています。サービス内容は、行動面とともに情緒面の支援もあり、介護計画のねらいである「総合的な援助」の方針があると見てとれます | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者やご家族の状況に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室への参加も開始した | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 法人内診療所による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、法人外の医療も受けられるよう支援している。 | 法人内に診療所があり、また距離もないため心理的にも時間としても大変近く、「医療が身近にあって相談しやすい」という特典があります。実際コロナ禍ではワクチン接種が3ユニット27名即日完了ということもありました | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、終末期に向けた対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて問い合せする等している。 | 入居時の意向確認とともにその後の状態変化にも都度確認をとっています。医療対応や緩和ケアの機能は持ちえない為入院となるケースはありますが「此処で最期まで」と望まれる場合、事業所もその気持ちに応え尽力しています | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急搬送等、速やかに対応できるよう利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測されるご利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーや自動火災通報装置の説明他、年1回は隣接するケアハウスと合同で水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。BCPの整備他、緊急時の非常連絡・安否確認ツールを法人として整備している | 敷地続きのケアハウスと合同で水消火器訓練を実施することは恒例となり、事業所内の法定訓練もできるだけ新人が参加できるようにシフトを工夫しており、2回の内1回は夜間想定もおこなっていて、諸所「こうしたほうがいい」を実践しています | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例等を共有している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている。本人が表現しやすいよう傾聴に努め、認知症の進行状況や後遺症に合わせて選択肢を出す等している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や業務時間を変更する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付き合 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティレクリエーションを実施して、ネイルとお化粧を女性利用者に楽しんでいただ | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりにあったかたちで準備や片付けに参加していただいている。ご利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、敷地内で栽培した野菜や果物の収穫から調理までを一緒に行い、食すまでを楽しんでいる。 | 3食は業者のセントラルキッチンから届くものですが、手作りおやつが盛んで、利用者の笑顔をひきだしています。葵館はおはぎや大学芋、泉館はわらび餅や果実ゼリー、幸館は水饅頭や羊羹と、職員の得意とするメニューが増えています | 「献立がわかりづらい」という家族もいますので、届ける写真の中に「今月のオンリーワンおごちそう」といったものもあるとよいと思います |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。ご利用者の摂取量や状況を確認し、食形態を見直したり、個々の食形態に合わせた対応ができるよう業務委託先を変更した。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月1回の歯科衛生指導があり、口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、個々に合わせて対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間に固執せず。排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながら、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。トイレの認識が難しくなった方でも、様子をみながらお誘いする事で、日中は布パンツで過ごす事が継続できている。 | 自立支援介護を導入しており、水分補給と運動、タンパク質摂取の内、特に水分を摂ることに力を注いでいます。未だ目に見えての効果はありませんが、現状平均介護度2.3とデイサービス並みの壮健さで、日中おむつ使用の例はありません | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行や体操の機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組んでいる。また、入居前からの習慣としてオリゴ糖を活用している方には、継続して提供したり、すすんで水分摂取できるよう、飲み物のレパートリーを増やすなど対応している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 好みのシャンプー等を使用していたいたり、好みの温度で入浴できるよう支援している。体調や気分に合わせて時間を変更したり、同性介助や楽しく会話しながらお誘いする事で、入居前に入浴拒否がみられた方も定期的な入浴ができています。 | 週2~3回を目安とし、便失禁には速やかに対処、また「回数を増やしたい」希望にも応えています。現在夜間の入浴を望む人はありませんが、同性介助希望者3名には適切に善処しています。そのような取組を通じて、拒否が減るという好転も見られます | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 在診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 中庭で野菜等を育て、植え付けから成長、収穫、調理までを楽しんだり、自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナによる外出制限が緩和された際には、ご家族の協力のもと本人のお好きなフラワーパークや外食へ出かけている。気候に合わせてドライブに出かけたり、誕生日に喫茶店へ出かけたりと、可能な範囲で施設での外出支援も継続している。 | 感染症の心配は残るものの、家族の協力を得てのお出かけや誕生日の喫茶店探訪など、少しずつコロナ禍前に戻りつつあります。プランターでの植栽やプチトマトの収穫にも笑顔が弾み、さらにその写真の中の大半が膝をかがめている事に驚きます | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたり、お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物購入の希望があった際には都度対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいている。携帯電話の操作が難しくなった方でも、姉妹間での会話が在宅生活からの日課となっているため、継続できるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 湿度・室温を定期的に確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかり行い、不快な臭いの防止や感染予防に繋げている。館内には季節の花を飾ったり、ご利用者が作成した季節の壁画等を飾っている。 | ベンチは活動的な利用者の「ちょっと一休み」のスペースとして貴重であり、本年は各ユニット4台ずつ計12台を新しく入れ替えています。また季節毎の空間づくりにも熱心で、7月には七夕短冊、8月には花火の壁画と作品を通して会話と笑顔が生まれています | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。共用空間と居室が離れている事もあり、居室内は雑音が少なく、独りでのおんびりと過ごしやすい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具はできるだけ使い慣れた馴染の物を持参していただいている。ご家族に相談し、アルバム写真や好みの装飾品等を置いていただき、自宅に近い居室空間となるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。 | 以前にはノートパソコンをたしなむ人もいました。現在は携帯電話を持ち込んだ人が5名おり、自由に家族と連絡を取り合っています。大きな物を持ち込む人はいなくなりましたが、母の日に家族から届いた観葉植物を置く人もいます | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2277100588 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人慶成会 | | |
| 事業所名 | グループホーム花みずき(泉館) | | |
| 所在地 | 静岡県浜松市西区大山町2882番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和5年9月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関や夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により地域交流は減ってしまいましたが、法人内の保育園児と交流したり、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地を活かした取り組みを続けています。敷地内で収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組みを始めた自立支援介護では、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの事業所では法人が運営面を管理しており、管理者やユニットリーダーが予算対効果を検討したうえで運営に携わるといことは見られません。当事業所では「アメーバ経営」を推進する法人の下、上位者たちが経営者と同様の役割を担っています。その為意見には大局観があり、裏付けも確かで信頼が積み、安心感が自然に沸きます。運営推進会議に準備する資料もデータや写真が盛りだくさんで、当機関が担当する100余の事業所の中で、抜きんでてトップオブザトップです。だからと言って頭でっかちになることもなく、利用者の飲むモノ、コトを常に考えていることがわかる取組があり、家族からも評価されている点も秀でている一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議でのクレドの唱和、行動指針を基に毎月目標をかかげている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が反映されており、共有と実践に繋げている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの状況に応じてだが、地域包括主催の体操教室への参加を始めた。また、浜松市主催のアルツハイマーデーに合わせた展示物の手伝いをしたり、地域の飲食店へ出かけたりにしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元高校生への認知症サポーター養成講座の講師として職員が参加している。また、運営推進会議の資料を通じて、認知症の種類などについて資料配布している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により書面開催が続いていたが、ご家族や地域の方からいただいたご意見には全て目を通して、ご家族の意向に合わせて施設利用料の振替システムを変更する等、意見を可能な限り反映させている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、コロナ感染や抗原検査キットの使用、予防接種の進捗、待機者状況等を求めに応じ報告を行っている。8月には運営指導があり、アドバイスいただいた点については改善を行った。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内で委員会を設置している。入職時研修他、事業所内でのリモート研修を実施している。会議録には不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行っている。個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターやご家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会制限が緩和され、ご家族から対面で意見をうかがえる機会が増えた。また、利用者の状態変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡をし、意見や要望を聞いている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めると共に、アミーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝えている。事業所運営については職員が主体となり、月間目標を立てている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の人事考課・面談を実施している。また年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も各職員が目標を持って取り組む内容になっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で新規採用職員研修が実施されており、入職半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修が受けられるよう整備され、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内研修へ参加してもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はなくなってしまったが、運営推進会議の資料送付を継続している。法人内研修により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会・外出制限を緩和し、ご家族と外出や外食にでかける機会が増えた。また、9月から居室内での面会を再開し、ご家族に衣替え等の協力を仰いでいる。面会以外にも、ご家族が来館したいタイミングで差し入れを受け付けたりと、ご家族と共に支えるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 暑中見舞いや年賀状だけでなく、レクリエーションで絵手紙を作成し、ご家族に送付している。毎日の姉妹との電話連絡や、晩酌等、在宅からの日課や関係性が途切れないよう支援に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 馴染みの利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や行動から、ご利用者の希望や要望を把握するよう努めている。希望に応じた手作りの食事を用意したり、選択肢を伝えながら意向確認に努めている。ご家族が誕生日プレゼントに用意した日本酒を使い慣れたおちょこで気分に応じてたしなむ等、ご家族の意向も取り入れ対応している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行っている。可能であれば自宅へ出向いて居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている。入居の際、センター方式の記入をお願いしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日々のケア記録や申し送りにより、常に職員は状況把握に努めている。ご利用者ごとの申し送りファイル他、定期的にADLの状態を見直し、LIFEへデータ送信している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。計画見直しの際にはご家族へ電話連絡や面会で意向確認を行ったり、必要に応じ医療機関と面談を実施し、面談内容を計画に反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者やご家族の状況に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室への参加も開始した | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 法人内診療所による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、法人外の医療も受けられるよう支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、終末期に向けた対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて問い合せする等している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急搬送等、速やかに対応できるよう利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測されるご利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーや自動火災通報装置の説明他、年1回は隣接するケアハウスと合同で水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。BCPの整備他、緊急時の非常連絡・安否確認ツールを法人として整備している | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例等を共有している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている。本人が表現しやすいよう傾聴に努め、認知症の進行状況や後遺症に合わせて選択肢を出す等している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や業務時間を変更する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も首取りに付き合 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティレクリエーションを実施して、ネイルとお化粧を女性利用者に楽しんでいただいた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりにあったかたちで準備や片付けに参加していただいている。ご利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、敷地内で栽培した野菜や果物の収穫から調理までを一緒に行い、食すまでを楽しんでいる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。ご利用者の摂取量や状況を確認し、食形態を見直したり、個々の食形態に合わせた対応ができるよう業務委託先を変更した。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月1回の歯科衛生指導があり、口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、個々に合わせて対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間に固執せず。排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながら、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。トイレの認識が難しくなった方でも、様子をみながらお誘いする事で、日中は布パンツで過ごす事が継続できている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行や体操の機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組んでいる。また、入居前からの習慣としてオリゴ糖を活用している方には、継続して提供したり、すすんで水分摂取できるよう、飲み物のレパートリーを増やすなどし対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 好みのシャンプー等を使用していただいたり、好みの温度で入浴できるよう支援している。体調や気分に合わせて時間を変更したり、同性介助や楽しく会話しながらお誘いする事で、入居前に入浴拒否がみられた方も定期的な入浴ができています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 在診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 中庭で野菜等を育て、植え付けから成長、収穫、調理までを楽しんだり、自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナによる外出制限が緩和された際には、ご家族の協力のもと本人のお好きなフラワーパークや外食へ出かけている。気候に合わせてドライブに出かけたり、誕生日に喫茶店へ出かけたりと、可能な範囲で施設での外出支援も継続している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたりしている。お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物購入の希望があった際には都度対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいている。携帯電話の操作が難しくなった方でも、姉妹間での会話が在宅生活からの日課となっているため、継続できるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 湿度・室温を定期的に確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかりと行い、不快な臭いの防止や感染予防に繋げている。館内には季節の花を飾ったり、ご利用者が作成した季節の壁画等を飾っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいよう支援している。共用空間と居室が離れている事もあり、居室内は雑音が少なく、独りでのおんびりと過ごしやすい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具はできるだけ使い慣れた馴染の物を持参していただいている。ご家族に相談し、アルバム写真や好みの装飾品等を置いていただき、自宅に近い居室空間となるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2277100588 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人慶成会 | | |
| 事業所名 | グループホーム花みずき(幸館) | | |
| 所在地 | 静岡県浜松市西区大山町2882番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年12月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277100588-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室 | | |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A | | |
| 訪問調査日 | 令和5年9月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関や夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により地域交流は減ってしまいましたが、法人内の保育園児と交流したり、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地を活かした取り組みを続けています。敷地内で収穫した果実や野菜で調理をしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。法人全体として取り組みを始めた自立支援介護では、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行い、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多くの事業所では法人が運営面を管理しており、管理者やユニットリーダーが予算対効果を検討したうえで運営に携わるといことは見られません。当事業所では「アメーバ経営」を推進する法人の下、上位者たちが経営者と同様の役割を担っています。その為意見には大局観があり、裏付けも確かで信頼が積み、安心感が自然に沸きます。運営推進会議に準備する資料もデータや写真が盛りだくさんで、当機関が担当する100余の事業所の中で、抜きんでてトップオブザトップです。だからと言って頭でっかちになることもなく、利用者の飲むモノ、コトを常に考えていることがわかる取組があり、家族からも評価されている点も秀でている一つです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議でのクレドの唱和、行動指針を基に毎月目標をかかげている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が反映されており、共有と実践に繋げている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナの状況に応じてだが、地域包括主催の体操教室への参加を始めた。また、浜松市主催のアルツハイマーデーに合わせた展示物の手伝いをしたり、地域の飲食店へ出かけたりにしている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元高校生への認知症サポーター養成講座の講師として職員が参加している。また、運営推進会議の資料を通じて、認知症の種類などについて資料配布している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により書面開催が続いていたが、ご家族や地域の方からいただいたご意見には全て目を通して、ご家族の意向に合わせて施設利用料の振替システムを変更する等、意見を可能な限り反映させている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、コロナ感染や抗原検査キットの使用、予防接種の進捗、待機者状況等を求めに応じ報告を行っている。8月には運営指導があり、アドバイスいただいた点については改善を行った。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 事業所内で委員会を設置している。入職時研修他、事業所内でのリモート研修を実施している。会議録には不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行っている。個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。今年度から担当委員をリーダーからフロア職員へ変更し、委員会のマンネリ化と意識向上に努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターやご家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更となる際には、都度案内を発送し、理解と必要に応じた同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会制限が緩和され、ご家族から対面で意見をうかがえる機会が増えた。また、利用者の状態変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡をし、意見や要望を聞いている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者はリーダー会議を通して現場の把握に努めると共に、アミーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝えている。事業所運営については職員が主体となり、月間目標を立てている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回の人事考課・面談を実施している。また年1回の職員意向調査を実施し、職場環境や勤務条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も各職員が目標を持って取り組む内容になっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人で新規採用職員研修が実施されており、入職半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修が受けられるよう整備され、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内研修へ参加してもらっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はなくなってしまったが、運営推進会議の資料送付を継続している。法人内研修により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前は本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、ご家族や利用していた介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。ご家族に、可能な限りセンター方式への記入を依頼している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申込の段階他、契約前に可能な限り再度ご家族に来館していただき、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な点や難しい点を説明しながら、関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう話し合っている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員はご利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、共に過ごすよう努めている。何かをしてくださった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会・外出制限を緩和し、ご家族と外出や外食にでかける機会が増えた。また、9月から居室内での面会を再開し、ご家族に衣替え等の協力を仰いでいる。面会以外にも、ご家族が来館したいタイミングで差し入れを受け付けたりと、ご家族と共に支えるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 暑中見舞いや年賀状だけでなく、レクリエーションで絵手紙を作成し、ご家族に送付している。毎日の姉妹との電話連絡や、晩酌等、在宅からの日課や関係性が途切れないよう支援に努めている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 馴染みの利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて行っている。ご家族から相談のあった際にも都度対応しており、退去後も別の親族や知人についての入居相談をいただく事もある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や行動から、ご利用者の希望や要望を把握するよう努めている。希望に応じた手作りの食事を用意したり、選択肢を伝えながら意向確認に努めている。ご家族が誕生日プレゼントに用意した日本酒を使い慣れたおちょこで気分に応じてたしなむ等、ご家族の意向も取り入れ対応している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や入居前の担当ケアマネージャー、利用していたサービス事業所へ聞き取りを行っている。可能であれば自宅へ出向いて居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、ご家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている。入居の際、センター方式の記入をお願いしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日々のケア記録や申し送りにより、常に職員は状況把握に努めている。ご利用者ごとの申し送りファイル他、定期的にADLの状態を見直し、LIFEへデータ送信している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。計画見直しの際にはご家族へ電話連絡や面会で意向確認を行ったり、必要に応じ医療機関と面談を実施し、面談内容を計画に反映させている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ご利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録している。記録を共有しやすいよう個別でファイリングすると共に、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者やご家族の状況に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、ご家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続きを行う等、可能な範囲で柔軟に対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 訪問による理美容、歯科、マッサージ、リハビリをご利用者やご家族の希望に沿って活用している。理美容の際には、ご本人の希望に合わせた髪型を依頼したり、歯科やマッサージ利用でその方の力を維持できるよう支援している。地域向けの体操教室への参加も開始した | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 法人内診療所による月2回の往診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。急変や医師からの急ぎの受診指示があった際には、職員が送迎や付き添いをし、法人外の医療も受けられるよう支援している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への状況共有や支援が受けやすい環境である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況等を詳しく伝えている。立ち会えない場合は電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に努めている。必要に応じてフェイスシートを作成し、入院前の情報を伝えている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じてご家族・医療関係者を含む面談を実施し、終末期に向けた対応を検討している。退去後の療養先についても、ご家族の希望に合わせて問い合せする等している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急搬送等、速やかに対応できるよう利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測されるご利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施している。スプリンクラーや自動火災通報装置の説明他、年1回は隣接するケアハウスと合同で水消火器訓練を実施し、地元企業からの指導を受けている。BCPの整備他、緊急時の非常連絡・安否確認ツールを法人として整備している | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えやすいようセッティングを工夫している。不適切ケアにならないよう、言葉かけの事例等を共有している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々の会話の中でも本人の希望等を聞くことができるため、ご利用者との会話を大切にしている。本人が表現しやすいよう傾聴に努め、認知症の進行状況や後遺症に合わせて選択肢を出す等している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や業務時間を変更する等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付き合 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回の訪問理美容では本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人やご家族の希望で日常的に化粧水を使用したり、ビューティレクリエーションを実施して、ネイルとお化粧を女性利用者に楽しんでいただいた。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人ひとりにあったかたちで準備や片付けに参加していただいている。ご利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、敷地内で栽培した野菜や果物の収穫から調理までを一緒に行い、食すまでを楽しんでいる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は業務委託先の管理栄養士が考え、バランスの良い食事を提供している。ご利用者の摂取量や状況を確認し、食形態を見直したり、個々の食形態に合わせた対応ができるよう業務委託先を変更した。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 月1回の歯科衛生指導があり、口腔内の状態確認とブラッシング指導を受けている。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、個々に合わせて対応している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間に固執せず。排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながら、個々に合わせたタイミングでトイレにお誘いしている。トイレの認識が難しくなった方でも、様子をみながらお誘いする事で、日中は布パンツで過ごす事が継続できている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行や体操の機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けて取り組んでいる。また、入居前からの習慣としてオリゴ糖を活用している方には、継続して提供したり、すすんで水分摂取できるよう、飲み物のレパートリーを増やすなどし対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 好みのシャンプー等を使用していただいたり、好みの温度で入浴できるよう支援している。体調や気分に合わせて時間を変更したり、同性介助や楽しく会話しながらお誘いする事で、入居前に入浴拒否がみられた方も定期的な入浴ができています。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調・気分に合わせてソファや自室で休息していただいている。室温や照明の調整他、希望に応じて冬場に湯たんぽを用意したりと気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴、運動にお誘いし、自然な睡眠の促しに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 在診時には薬剤師も同席し、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には理由を必ず記録し、職員間で共有している。変更後の経過も必ず確認し、医師に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 中庭で野菜等を育て、植え付けから成長、収穫、調理までを楽しんだり、自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナによる外出制限が緩和された際には、ご家族の協力のもと本人のお好きなフラワーパークや外食へ出かけている。気候に合わせてドライブに出かけたり、誕生日に喫茶店へ出かけたりと、可能な範囲で施設での外出支援も継続している。 | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、ご家族に了承を得てお財布を持っていたりしている。お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物購入の希望があった際には都度対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 年賀状・暑中見舞い他、姉妹との手紙のやり取りを支援している。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいている。携帯電話の操作が難しくなった方でも、姉妹間での会話が在宅生活からの日課となっているため、継続できるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 湿度・室温を定期的に確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかりと行い、不快な臭いの防止や感染予防に繋げている。館内には季節の花を飾ったり、ご利用者が作成した季節の壁画等を飾っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。リビング他、廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを配置しており、思い思いの場所で過ごしやすいう支援している。共用空間と居室が離れている事もあり、居室内は雑音が少なく、独りでのおんびりと過ごしやすい。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具はできるだけ使い慣れた馴染の物を持参していただいている。ご家族に相談し、アルバム写真や好みの装飾品等を置いていただき、自宅に近い居室空間となるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでいただいている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を少し離れた場所から見守り、必要時に手助けにうかがえる環境となっている。 | | |